
神様の苦悩

CHONCHU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様の苦悩

【Nコード】

N2930B

【作者名】

CHONCHU

【あらすじ】

お客様よ！今こそ笑いあり涙ありのサービス業の辛さを知れ！！

開店 いらっしゃいませ（前書き）

あらすじを読まれて不快に思われるお客様、
閲覧をご遠慮ください
ますようお願い申し上げます。

開店 いらっしやいませ

この小説はサービス業界の作者の苦悩を書いたものです。反感もちそうな方は閲覧をお止めくださいますようお願い致します。18歳で高校を卒業し、幸か不幸かついた職種は地獄のサービス業界!! 毎日サービス業界の人間を神様(或いは仏様??)と勘違いしてるお客様様と格闘し裏では地位のフルーツバスケット。つたくサービス業ってのは何だかなあー。

試練1 靴下事件

プルルルル…プルルルル…

地獄のベル…じゃなくて電話はなる……。

まずはシカト。これ基本。

プルルルプルルルプルルルル…

ちっ。

おいゝ誰もとらねえのかよー。ちきしょー。

仕方なくなくカチャ…っと受話器をあげる。

「はい、お電話ありがとうございます。○ ■でございます。」

「あゝもしもしゝ？○ ■会社ゝ？？」

…だからそう名乗っただろ。ここで

『えっ？違います。うちは渡辺ですよ』とか言ってもいいかな？
か思いつつ

「はい、そうです」

と言える自分に自我絶賛。ふう。

「あのさあ、お宅で買った靴下買ったばかりなのに破れたんだよねゝ不良品だぞ。こりゃ。」

「左様でしたか。申し訳ありません。では商品確認の為にレシートナンバーとレジナンバーを教えてください」

「レシート！？んなのねえよ」

ちっ。「では一度確認してお取り換えいたしますので商品持参して頂けますか？」

「あー分かった。今すぐ行くから詫び品用意しとけよ。」

ガチャン…ツーツー

……詫び品、ねえ……。さてさてサービスコーナーにてお客様を待ちかまえ…じゃなくてお待ちしていると…

片手にカエル色の靴下を握り締めたお客様発見！

すかさず歩みよる。

「靴下の件で電話頂いたお客様でいらっしゃいますか？」

「おう。出迎えご苦労」

ここは極道つちかよ…。と、おもむろにカウンター上に靴下をぽいと置いた。

うっ！……！！……！！……？こ、これは……！！……とても買ったばかりとは思えない何度も洗濯されたようになくたびれきったヨレヨレの靴下。しかも他の係員がいつせいに振り向く程の悪臭。すでに天然危険物に指定されているようなものである。

げえええ……

さ、触りたくない！！

がにこやかに対応する。ここで表情を変えてはプロがすたる！疑問を口にした。お客様、恐れいりますがいつ頃お買い物をいたしましたでしょうか？」

「あ？１ヶ月前。」

嘘つくなよ。じゃあ何か？まさか靴下が一足しかなくて毎日毎日それを洗濯して履いてるのかよ！

洗濯機様ご愁傷様でございます。そして毎日ご苦労様……あなたには心底同情申し上げます。

「金、返してくれりゃあいから。」

おい！そんな状態にしといて返金しろってか！！

正気ですか。お客様……が、そう言ってる以上応じるしかない……

嗚呼悲しきサービス業……恨むよ会長！

「かしこまりました。ご返金させていただきます。少々お待ち下さいませ」

値段を確認し返金する。もちろんお詫び品は忘れたふり。

「おい、詫び……（の品は！と彼が良かったのでしょう）」

「こちらは少しですがお使い下さいませ。ご迷惑をお掛けいたしました」

……なんて思うわけねーだろ！とか心で呟きつつ笑顔で詫び品を渡す。

ふっ。完璧。二度とくんなアホ！

「あんた、名前は？」

にっこり笑顔で偽名を名乗る。

「斎藤と申します。またなにかありましたらお電話下さいませ。」

「おう！わかった。じゃあな！」

なにが気に入ったのかお客様は笑顔で帰っていく。ふう。塩まいとかないとね。

後日誰かが電話で『当店には斎藤というものはおりませんが…』と困っていたと聞いた。くわばらくわばら。

ありがとうございます。またお越しにならないで下さいませ。ふう。

試練2 裏ボスキレる

どこの会社でも掃除のおばあちゃんが存在する。強きをくじきさらに弱きをもくじく！ いわゆる裏ボスである。そんな彼女が引き起こしたトラブル。

のほーんと業務をこなしていた時それは起こった。
電話をとったおっとり系の女の子が

「お客様が責任者に代わって怒鳴ってるんです」と言ってきた。仕方ない仕事するか…

「お待たせ致しました。私責任者の芦●と申しま……」

「あんた！従業員にどんな様子してんのよ！！！！！！！！！！」

全部名乗らないうちに絶叫である。
耳キーン。

自己紹介くらいせめて最後まで聞いてくれないかな……

「はい、お客様なにかございましたでしょうか」

「なにかなきや言わないだろ！！」

ごもつとも。だから早く用件言ってくれ。

「従業員に掃除道具でぶつけられて拳げ句の果てに『どこ見て歩いてんだよ。』

「気を付ける」って言われたんだよ……！！！！！！！！！！」

.....。

えっ??

ど、どこ見て歩いてんだよ?

それって何語??

みたいな。一瞬なに言われたのか分かんかった...はっ!お客様応対しなければ!!

「お客様大変申し訳ありませんでした!..!」

「申し訳ありません?

ふざけんじゃねえよ!..!..!」

その通り。なんやかんやと話は続きかれこれ30分。お客様のお宅に伺い菓子折り持参でお詫びすることに...。

さて、本人に確認しなければ...。

脳裏に浮かぶは体のデカいいつも強気、それでいて気さくなボスである.....

「もしもし?今すぐ●× さんに来るように言ってくれる?よろしく」

数分後、ボス到来。

「なに?」

「あのーさっきお客様とトラブルありませんでした?..!」

「ないよ。」

即答かよ！どうもありがとう。

って違うだろ！！

「お客様からさっき電話あつて怒鳴られたって言っていましたけど？
心当たり…本当にありますせんか？」

しばらくの沈黙のあと口を開く。

「だって私掃除してたのに掃除道具踏んでゴミもせつかく集めたのにそれも蹴ってそれでぶつかってきて睨んできたんだよ！！？」
それはむかつく。ただ、

「お客様の態度が悪かったからといってこちらが憤怒したりお客様に対して暴言を吐く理由にはなりませんよね？」プライドが傷ついたのか、はたまた反省したのか。

体が大きく普段態度もでかく（失礼）年齢を重ねた女性が俯いて今にも泣きそうになってる。ぽんと肩に手を置き声をかける。

「とりあえず、謝りに行きましょつか。」

ごねる彼女を宥めすかして。

菓子折りを用意して上着を着る。さて、出陣。

お客様のお宅は店から車で約35分。
表札を確認し

ピンポン ♪ ♪

中から怒りの顔で出てくるお客様。

開口一番

「のこのこ来てんじゃねえよ！！」

そりゃないぜ。お客さ〜ん。

「この度は大変申し訳ありませんでした。なんとお詫びを申し上げたらよいか……」

一旦言葉をきって相手の反応を伺う。

「土下座しろよ」

は？ど、土下座……っすか？マジ？

いくらこつちが失礼をしたからといって出来る事と出来ないことがある。私達サービス業の人間は神様でも犬でもない。

人権もないと言うのだろうか？

さすがに腹がたつ！！　がここはこれで稼いでる私はプロ！ぐつと堪えて言葉を紡ぐ。

「申し訳ありません。それは出来かねます。他の方法でお詫びさせて下さい」

と言えば相手も負けずと

「なに、出来ないって？じゃあ死ねよ！！仕事辞めろよ！！この世から消えろ！！！！ゴミ！！！！！！」

……………ぶちっ。

すげー悪のりし過ぎでしょ。

分かった。分かったよ。そこまで言うならもうなにも言わん。

望み通り帰ってやろうぢゃん！！

「かしこまりました。では失礼させて頂きます。この度は本当に申し訳ありませんでした。失礼致します。」

サツと背を向けて歩き出す。

くだらない。

くだらなさすぎる。

何を言われても頭に来ないとも？

なにを求めているのか知らねーが生憎所詮人間。

殴られれば痛いし罵倒されればむかつくし。

覚悟は出来てる。

お客様相談室う？

はっ！！

ああ電話するがいい！

人間棄てる位なら喜んでお説教くらい聞いてやるわ！

ところで、当社のお客様相談室はまんねん人手不足、である。

時期的に忙しい時期も当然あり。

すなわち応援に駆り出されるのである。

昨日の事件のせいで忘れていたが翌日はちょうど応援の日。

夕方、受けた電話の出だしはこうである……………

「あんた！従業員にどんな躰してんのよ！……………」

……………。お客様、昨日振り
ですネ……………

ってかむしろ声で気付くだろ！

しかし昨日より更に興奮してるのか気付く気配はない……………
……………。

こつして事件は……いや、サービス業はループし続ける……。

試練3 プリンのフルーツバスケット

さて、年末過ぎればそろそろ人事異動の時期である。

人を蹴落とし

更に報告書をだしまくりゴマをゴリゴリする！すりまくる！！

がんばれ、キャリア（？）組！！

がんばれ、

フルーツバスケット！！

因みにオレはプリン希望だ！

下手にフルーツなんて選んだ日には仲間に入れられてしまう…。

掴まれ

皮を剥かれ

グチャグチャに食べられ行き着く先は墓場ではなく確実に生ゴミ入
れだ。

かわいそうに…。

某人物（支店長である）が言ってたぞ。

『あいつら俺が言えば忘年会で踊るぞ』

って。

なに踊りを見せてくれるのやら。

阿波踊り…

いや裸踊りか??

フラメンコもありだよな。

はたまた三回回ってワン！！

か！？

つてそもそも踊りに入るのか？？

ふむ。

こうして考えると憂鬱な忘年会も捨てたものではない。
そんなこと考えてニヤニヤしていた午後。

『芦●さん』

呼ばれた。

……。シカトしてもよろしいでしょうか、支店長様。

「はい。？」

取りあえず返事してみた。

「この前包装で値札トラブルがあっただって？」

でえゝ えええええ！！！！！！！！！！？

何故知ってるんだ！？

どーやって知ったよ！このたまごひよこクラブ野郎が。

何故たまごひよこクラブかと言うと髪が申し訳程度しかなくその様
はまさに髪の生え始めた幼児だ。

「はい。ございました。が、お詫びして終了してます。」

「困るよゝ。この時期にそんなトラブルゝ。ったく、ちゃんと下を
管理してないからこういう事態になるんだろ！」

管理不足ってここは政治犯収容所かよ！

北朝鮮じゃあるまいし。鞭打ってミスで働けってか??
ケツ。

確かにやっちゃいけないミスだったけど。

別にワザと値札取り忘れた訳じゃねーし仕方ないだろ…。

その後23分07秒46のお説教(ちゃんとストップウォッチで計
ったんだよ。)に付き合い一礼して立ち去る。

リーマンは辛いぜ。

はあー。

しかしマジでなんで知ってやがるんだ??

席に戻ると隣にはニマニマした顔。

お前か…。

統括チーフ。

分かり易過ぎだろ！

正直過ぎて出世できないんじゃない??。

ってかフルーツバスケットには参加しないって言っただろ！オレは
プ・リ・ン！だああああー！！！！！！！！！！

さっき書いてて気付いたんだが、統括チーフって統括って部分とチ
ーフって部分が意味かぶってるんじゃない??………。

まったくそんな会社だもんな。

そりゃプリンもフルーツに入るってもんだ。

ふう。

試練4 トロウイルスとオレ

流行りに乗るのはけして若者達だけではない。

最近大！流行のノロウイルス……これがなかなか……お年寄りの中で流行ってる（??）。

どんな風に流行ってるかと言うと……………。

プルルル…プルルル…プルルル……

だー！！

誰も居ねえのかよ！！

って既に9時か…居るわけない。
が、出たくない。

なぜならろくでもない事は大抵電話から始まるのである。

プルルル…プルルル…プルルル…プルルル…プルルル…プルルル…

しつこいぞー！！

留守電にしてやろうか、と思いたちボタンを押そうと電話に近寄る。

えーっと……ってどれだよー！！

いつも若い女の子がやってくれるから知らねーよー！！

…っこれか??

ポチっと。

と同時に大音量で声が響く。

『もしもし！？もしもし！？』

なんだなんだ？？

おい、もしかして変なボタン押したか？？

しょうがねえ。

「はい、お待たせ致しました。

○ ■でございます。」

『お前はどんな奴だ！！』

おおつと。

そりゃまた急だな。

どんな奴って…

もちろん顔はトムクルーズ似

体型はクオンサンウ

速水もこみちの脚の長さの素敵なオヤジだが？？
と

言っているのか？

よく分からないのでお客様（多分）に聞いてみるに限る。

「とおっしゃいますと」

『お前はえらい奴かって聞いてんだよ！！』

なんだよ。

そっちかよ。どいつもこいつも。また自己紹介しそびれた！

ってオレ、

えらいか？？

かつこいいことは間違いないんだが。

まあえらいといえばえらい！

なんてったって朝から晩まで働きづめだもんな。うん。

えらい…だろう。で、お客様なんのご用ですか？

早く帰ってセブンイレブンの弁当食べてお笑い見てわかちゃんを見るという素晴らしい計画が台無しになるじゃないかよ。『ノロウイルスだよ！！』

お前んとこの一階で買った惣菜食ったらノロウイルスになったんだよ！！』

ノロウイルスにかかったんじゃないかってウイルス自体になっちゃったの??

ぷぷぷ。笑っちゃう

マジ？

話しには聞いてたけどマジで？

ちよっと間近で見たかったんだよね。

丁度いい。

拝ませてもらうぜ。

ノロウイルス！！（それ以前にノロウイルスにかかったくせに元気良すぎだろ！！）

「左様でございましたか。ではぜひ病院に行かれて…いえ！わたくし付き添わせて頂きます！！今から参りましょう。ノロウイルスてなりますと動けませんよね。救急車をお呼びいたします。ご住所はどちらでしょうか」

『今からか！！？』

電話の向こうで微かに動揺してる気配がする。

この動揺の仕方は…

素早く考える。やはり…

「今日は遅いから暫く様子見してやるよ」

そ〜ら来た。

ノロウイルス感染者が様子見してやるよなんて悠長なと言えるか！こちらその為にマニュアル読みまくってるんだよ。まあ念には念を入れて、っと。

「とんでもありません！わたくしどものせいで大切なお客様にその様な症状を引き起こしたとなれば申し訳が立ちません。是つ非！病院に一緒に行かせてください。勿論診察代は当方でもたせて頂きます。」

力強く言うと

「や、さっきより大分いいからよ…」

とモジモジしました。

つて早っ！

随分軽いノロウイルスじゃないかよ。

さっきの勢いはどこ行つた？？

どうやら下痢と一緒にトイレに流れちまつたらしい。

ノロウイルスじゃなくてトロウイルスじゃねえの？？

さて、と。

仕上げを、する。

「左様でございますか？では明日の朝わたくしからお電話させて頂いてから病院にお連れします。お電話番号よろしいでしょうか」

『いや悪いから俺から電話するよ。さっきよりだいぶいいんだからさ。胃薬が効いたんだな、うん。』

かなり低姿勢になつてきた。

ちよつと待て！

Σ胃薬でノロウイルスって治るのか！？

正露丸じゃなくて！？

「かしこまりました。ではどうぞお電話よろしくお願い致します。」
「かちゃん。」

と。

多分明日は電話かけてこないだろう。
やべえ。

お客様の名前聞くの忘れた。

ま、いつか。

絶対かけてこねー。

かけてきたら相当マヌケか相当利口か…。

翌日。

彼は案の定お電話下さいませんでした……………。

その後同じような電話は続く続く。

これを書いてる今現在

おばあちゃんから一件

おばさんから一件

例のおじいちゃんから一件

すげーなノロウイルス！！

しばらくノロウイルスは流行るでしょう。

！！

また女の子に留守電の設定聞くの忘れた！！

試練5 気分屋支店長（前書き）

よろしければ評価をお願い致します。

試練5 気分屋支店長

以下3つはサービス業の人間が逆らえないベスト…いやワースト…
…いやいや最凶3である。

第3位お客様

まことにやっかいすぎる。たまに日本語通じてないかと心配になる
お客様が若干。

（実はサービス業界に入るまではお客様が最強だと思っていた。）

第2位上司

上司に嫌われる位ならお客様なんて相手にしてられない的な強さを
誇る。態度だけでは事足りないらしく腹まで出しすぎている。たま
に妊娠説が流れるがただの脂の塊にしか見えない。

第1位奥さん

ちなみにただの奥さんではない。浮気がバレた後の般若顔
それはどんな核兵器より威力があり最強でいて最凶である。
あんなものを見せられた日には普段部下にガミガミ言っただ偉そうに
ふんぞり返っている上司もゴキブリホイホイにかかったただのフン
コロガシである。

で、今日は第二位の上司について書くことと思う。
つい最近の話。

うちの店は店内に出るとすぐ紳士服売り場がある。
通りすがりに紳士服売り場を横目でチラリと見ると、

なんだありや！！！？

販売員がみんなそろって手を後ろで組んでいる。

それはもう、接客をしてる奴からお客様を試着室の前で待ってる奴、
品揃えをチェックしてる奴でもある。

とにかく意地になって組んでいる感じだ。

うちの店はいつから軍隊になったんだ？
ってここは韓国かよ！

どうした！
なにがあつた！
紳士服売り場！

気分は時代劇で敵に斬られあと少しで死にそうになってる脇役を揺
する松●健である。

と、なるとこの回の最後はぜひ

『成敗！！』
で締めたい。

で後でチーフに聞いてみると。

「はあ、支店長指示なんです。『なんで手を前で組んでいるんだ！
普通後ろだろ！後ろ！！』ですって」
なんだそりゃ…

や、普通におかしいし！手は普通に前だろ！誰がつっこめよ！

「いいよ。前で組んで」といえば

「や、でも支店長指示ですし」

なんて日本のサラリーマンの模範解答が返ってくる。

「たく奴の仕業かあ！！たまひよ（たまごクラブひよこクラブの略）支店長！」

直談判しにのっしのつと支店長室に続く道を歩いていると

ブーッ
ブーッ
ブーッ
ブーッ
ブーッ

携帯のバイブである。

どこに居ようと呼び出しをかける悪くいえば首輪。良く言えば…手錠？

「はい、芦●です」

『本部接客部の・崎さんが入られました』
受付嬢が可愛く告げてくれる。

だあ——！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

!!!!

くそっ！

とりあえず本部の奴を相手にしなきや。

この件は後まわしだ。

来た接客部●崎さんは意外や意外。28歳から30歳位の小柄な可愛いめ女の子だった。互いに挨拶をして店内を案内する。

既に従業員には接客部の人間がくることを知らせてあるからみんないつもよりシヤンとしてる。

売り場を練り歩き、次は紳士服売り場
つてえええ！！！！！！！！！！？

— 571 —

接客部が来るって言っただろ！！

手！手は前！にしてくれ――！！！！

頼む！！

● 崎さんを見ると何事もなかったようにレイアウトの説明を求めてきた。

ほっ。

気付いてないらしい。

セーフ。

最後にインテリアを見て店内は引き上げた。

いつもよりお客様が少なく普段はそのことを気にするが今日はそんな場合じゃない。

紳士服の件を気付かなくてほっと一息。

冷や汗で背中のはびっしり。

●崎さんが帰ったら着替えようと密かに思った時

「芦●さん」

と●崎さんからお声が。

はいはい。

なにかなあゝ既に今日は無事やり過ごせた（気分）から何でも聞い
ちやうよゝ

とばかりに愛想よく

「はいゝ」

と返事を。

「お店の雰囲気とても良かったです。」

そうだろゝゝ

「皆さん接客時の言葉遣い、商品知識も良くて」

ふつ。

もっと褒めていいとも！むしろ賞賛してくれ！

「ありがとうございます。ですがまだ改善点が沢山あります。お客
様に満足して頂けるようもっと努力していかないといけません…。」

夢にも思わない日本人の謙遜文句を並べれば

「ただ一つだけ気になったんですが…

何でも言えゝ

既に気分は風俗から帰ってきた直後の清々しい気分である。

「紳士服売り場は手を後ろに組んでいましたよね？あれはどういった方針なんですか？」

ジャジャジャジャーン……！！！！　BYベーターベン運命

ジャ・ジャ・ジャ・ジャーン……………

……………。

「あー、それは……支店長の方針でして……はい、」
目を白黒させつつ言い訳（？）すると

「ですが接客は芦●さんが教育されてるんですよ？でしたらキチンと売り場をいつも見ていないと。支店長に任せっきりにしないで責任は果たして下さらないと」

小、小娘ええ〜

さっきまでの気分はどこへやら……ここまで言われると塩をかけられたナメクジだ。

梅雨時の天気のような心をひっぱたきつつ適当に

「あ〜ども。すみません」

とかいいつつ。。

●崎さんを玄関まで追っ払い……もとい見送りのっしのっしと真っ直ぐ支店長室に向かう。

ゴンゴンゴン（間違ってもゴンゴンなんて可愛い音なんて出さねえ）

「失礼します」

『うん。入れ。』

入れ！じゃねーよ！！

トンネルをくぐるとそこは鶏小屋でした

なんてことはありません

おもむろに用件を言わないと。

「紳士服の件なんですが。」

「うん。何？」

『人の話を聞くときは顔くらいあげろ！このハゲ！！大体1ヶ月に一回は美容院』だあ？てめー切る髪なんて生えてないじゃねーか！！いいとしてこいて悪趣味な真オレンジなんて着やがって！！おめーのせいでオレが怒られたんだよ！このヤロー！！！！！！！！！！』

と言ってやりたいのを抑えつけ冷静に言葉を組み立てる。

「紳士服のお客様を待つてる時の手なんですけどうやら後ろに組んでいるんですよ。で、支店長が後ろで組むようにとおっしゃったようですが……」
「なにそれ？」

うわ！

すつとぼけやがったよ！

「後ろで手を組むように売り場が言われたそうなんです。」

「誰だ、そんなことを言ったのは。」

おめーだよ！

「そんなこと言っただけなあゝ?？」

「とりあえず手は前で統一していいですよねえ。」

「うん。それが普通でしょう」

Σ(□;!!

普通の道を自ら犯した本人が言ってるや世話ないぜ…。

「じゃあ今後はそうやっていくので」

一礼して支店長室を後にする。

携帯を取り出し紳士服のチーフに電話をかける。

「あ、もしもし芦●ですけど。支店長と話したらね『そんなこと言っただけなあ』って。だから今まで通り手は後ろで組んでください。」

『あー。あの日支店長不機嫌でしたから思い付きできつと言ったんでしょうね。あっはっはっ。』
「違いない！」

あっはっはっ、ってなあ。

気付いてたなら真に受けるなあゝ

これにて一件落着……………? ?

ちなみに読者の皆様は何を手の位置くらいでくだらない…と思われるかもしれませんが……

実は立つてる時の姿勢から笑い方にいたるまで教育されてデパート店員は売り場にいるのです。

そんな一生懸命な姿を見たらちよびつといたわってください（笑）

『成敗！！』

言いたかったけどどっちかっていうと成敗された…ぐはっ！！

って感じでしたよ。

今回は……………。

試練5・5 ドラゴンフルーツの謎（前書き）

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。年末に書いたのに鬼のような年末年始の為アップできませんでした。少し時期がズレてますがご了承を。

尚、団体名などは実際とは何ら関係ありません。

試練5・5 ドラゴンフルーツの謎

さて、年末です。

師走と言つくらいだから当然普段プラプラしてるえらい奴も忙しく働く月なはず！

……………が。

どうやら昔の人は嘘つきらしい。

走るところか小走りもなし！

いつもど〜りカメもびっくりな歩み。

そんな事など一切感知せずただただ年末は過ぎる。

勿論、

クレームと共に。

「あの、お忙しいところ申し訳ありません…」

おっとり系女の子が遠慮がちに告げてくる。

「どしたの？」

「ちょっとお客様とトラブルが…。」

オレは基本的に相当お客様が駄々をコネたり責任者を出せと騒いだりかなりご立腹でない限りクレームは関わらない。

しかも彼女は有能で自分でいつもきちんとして解決しているのを知って

るから相当困ってるに違いない。

「？」

テープが黙って彼女から手渡される。

デスク横にある機械に差し込み再生ボタンを
カチッと押す。

『おい！昨日お前の所で買ったドラゴンフルーツ腐ってたぞ！！
つたく腐ってるの売って儲けてんじゃねえよ！！バカヤロウ！！！！』

わお…。

初っぱなから元気な男の怒声が聞こえてくる。

ちよっと、おじさ〜ん。機械がビリビリ言ってるよ。

これ壊れたら新しいのおじさんが買ってくれるかな♪

テープの中の彼女は当然謝って商品交換かご返金を申しでた。

『たたくてめーは無能だな！』

『申し訳ありません。』『いや、お前が謝って済む問題じゃねえ。

お前みたいな能なし雇った会社が悪いんだ』

こんな屈辱的な言葉を吐かれてさぞかし辛かっただろうに。

彼女はここで一回テープを止めた。

「この直後私は代替え品を用意しに地下の食品売り場に降りました。

」

しかしここから更に問題は発展する。

なんと売り場はドラゴンフルーツを売ってなかったのだ。

おいおい…。

担当者に聞くといつも卸してる業者がここ1カ月程ドラゴンフルーツが仕入れられなくなって販売してなかったらしい。
が、お客様は‘昨日’買ったと言った。

聞き違いかとテープを確認してもやはり‘昨日’と怒鳴っている。
困り果てた彼女は再びお客様宅に電話した。

『恐れいります。昨日お買い上げとのお話でしたが昨日は販売してなかったようです。いつどちらでお買い上げでございますか？』

『ふっざけんじゃねえ！！てめー能なしの上に目まで腐ってんのかよお。ったくドラゴンフルーツって言ったら青果だろ！？頭でも下げて売り場の奴に聞けよ！じゃなかったら胸でも揉ませて聞かあ！！！？』

テープからは悲惨な侮辱文句が響いてくる。

お客様は怒鳴るだけ怒鳴って一方的に電話をきってしまったらしく

ガチャ！！ツーツーツ…と虚しい音が事務所に響く。

クソ野郎。

さて、どうしたもんかと考える。ヒゲをさわりながら考えるとその仕草を役立たずだとなじってるように見えたのか？

「申し訳ありません。」

と頭を下げてくる。

いや！違うんだ！ただどうするか考えてヒゲさわってただけなんだー！！誤解だよ！！！！

口にしようにと思ったけど上手く言葉が出てこない。
ちきしょー！。

このドラゴンフルーツ野郎のせいだ！！

大体ドラゴンフルーツ野郎が電話かけてこなかったらオレがこんな目に合わなかったのに！！
全部奴のせいだ！

自分の口下手を人のせいにしたらがぜんやる気が出てきた。

よし、まずこのクソ野郎を退治して名誉挽回だ！クソ野郎（実際はお客様だが女の子を泣かせる奴は客じゃない！！）の電話番号と名前を聞いて

「あとやつとくから」

とだけ言って仕事に戻す。

さて、どう攻めますか…。

取りあえずドラゴンフルーツの確保をしないと。食品のチーフに電話すると

『ドラゴンフルーツ…ですか。いやーちょっと無理ですね…』

どうやら本当に手に入らないらしい。

「ッは今販売してないんですよ。」
女の子を傷付けた奴だしかったるいわですでにいつもどりの丁寧
さんてない

『はあ!?!』

「で、お調べしたいのでレシートお手元にお持ちですよ?。」

『んなもんねえよ。』

「そうですね〜で何時頃お買い上げですかね?こちらで特定し
ますので」

『覚えてねえよ!?!』

「では昼でしょうか?朝でしょうか?夜でしょうか?」

『…昼だよ!!昼!』

こんなところで電話なんてかけてねえでさっさと調べろ!タダじゃお
かねえぞ!?!』

何度も言わせるなって自分が勝手に言ってるじゃん!

しかもタダじゃおかねえっていくらになるんだろうか…1000円?
2000円?まさか…10000?困ったなあ…給料少ないのよ!
仕方ない!オレの体で払うよ。や・さ・し・くしてね、んもう。

『おい、聞いてんのかよ!?!』

あ。ごめん。聞いてなかったよ。

「かしこまりました。キッチンと確認してお電話致します。」

『まったく天下の●ー力堂がなにやってんだよ!!!!!!』

.....ん？今なんて言った？

●ー力堂って言わなかったか.....？

おいおいもしかして.....ってんなバカな

頭に食品チーフの話が一瞬浮かぶ。

” ●ー力堂で見た気が“ みたいなこと言ってなかったか？

疑問はどんどん膨らんで確信めいたものになる。

「お客様当店は。 社ですが当店でお買い上げいただいたんですよね？」

『ああ！？だ〜から！！お前の所の●ー力堂で買ったんだよ！』

うちは。 社だアホ。

「残念ながらお客様、当店は。 社でございます。」

『あああ！？ってめえは誰だ？』

誰だ...って芦●です。

「先ほどドラゴンフルーツの件でご連絡頂きました。 社の芦●と申します。」

.....。』

「……………」。

ブチッ。

えっ???

ツーツーツーツー…。

って、おい!

切りやがったよ!!

自然に笑みがこぼれてくる。そうゆうことが……うちの店と●ーカ堂を賭間違えたらしい。うちの可愛い子ちゃんを可愛がつといて今更そりゃないじゃーん♪ 慰謝料くらいは、ねえ♪♪

ピポパポピポパポ…

そっこー再びお客様宅に電話。

『はい』

さっさと違う(奥様だろうか)おばさんが電話にでる。

「もしもし○ と申しますが申し訳ありません。先ほどお電話中にお電話がこちらの手違いで切れてしまったようです。」

ノリノリで話すと…

『ちょっと待ってください』

と言って受話器を置く音がする。

“ あんたー電話ー!! ”

…… はあ? …… 出ないの? じゃあどーすんのよー!! …… セ
ールス? でも。 社だよ? …… たく …… ”

いやいやデパートはセールスしないだろ!

と、バタバタ

お、こつちに歩いて来た音がする。出るかな、出るかな、

ガチャ。

Σ (□ ; ; !! ”

またやられたー!!!

その後何度もかけたが電話はつながらなかった。
ちきしょー。いいとこ見せようと思ったのにオレの“ やっぱり頼り
になりますね ” 計画がだいなしじゃねえか!! せっかく… せっかく
うううー!!!!!!

仕方なくなく女の子にその話をしたら笑いながら

“ ありがとうございました ”
ってー!!

うはー可っ愛い♪♪

オレの中では煮え切らなかったがまあよしとしよう!

そんなことを考えながら大量の問題を抱えながら年末は過ぎていっ
た……………。

試練6 浮気祭（前書き）

多数のアクセスありがとうございます。
よろしければ評価を頂けると助かります。

試練6 浮気祭

“上司には逆らえない”

これはどの職種についていても共通事項である。

例え赤だとしても上司が緑と言ったら緑！

非常に不可解で生態系もどんな優秀な動物学者であっても調べ尽くせないであろう天然危険物。

それでいて絶滅することはない……。

しかし、世界は広い！

そんな生物を凌ぐ凄い怪物（失礼！）がいる！

すなわち、

夫の浮気を知った妻、である。

うちの店は浮気のディスカウントショップ。

あっちこっちで不倫カップル蔓延中。

カビとりハイターストロング！でもとりきれない奥様泣かせ。

中でも有名な不倫カップルはこちら。

支店長とク・ニークの化粧部員のお姉ちゃん。

この2人一体いつからか良く知らないが一目を憚らない強者である。売り上げを見るパソコンの前に二人で座りデスクの下で手を繋いだ

り食堂で二人きりの世界を作ってみたり。
去年は二人で北海道に行ったとか。

たまひよのどこがいいやら…

果たして金目当てなのか…

それとも本気で好き同士なのか…

そんな2人に愛の（？）試練が訪れる。

支店長の奥さんにバレたらしい。

何が？

浮気、が。

何でバレたのかオレは知らない。女の子達の噂によると携帯の電池パックの裏に貼っていた（随分周到だな）プリクラ（えっ！？今時プリクラ！？）を見られたらしい…
アホだ…。

支店長の奥さんは美●子さんと言って横浜山手の一等地が実家の生粋のお嬢様だったはず…。

オレも面識はある。

“主人をよろしく”と言われてお歳暮とお中元を頂く仲（？）だが。
“主人をよろしく”……ってこういう意味か…？だとしたらオレの命も危なくなってきた。オレは慌てて支店長室に走った。

走って走って…、今のオレなら世界をとれる！っーくらいのスピードで支店長室に着く…、

と、そこには憔悴した支店長の顔が…。

というわけでもなかったがいつもは電話に顔の脂がつくくらい脂ぎ
つてる彼の顔は……
乾燥していた。

「支店長……」

名前（？）を呼んだものの何を言ったらいいやら……“浮気がバレた
って聞きましたけど”

いやぶっちゃけ過ぎる……“ク・ニークのお姉ちゃんと別れた方がい
いんじゃない”

結論早っ！第一支店長、オレが浮気奥さんにバレたこと知らないし！
うーん、なんて声をかければいいんだ……

突然支店長から声が降ってきた

「芦●さん、今日飲みにいかない？」

えっ……!? やだよ。

「あ、はい。行きま、しょうか」

オレのバカ！

陰気な支店長の様子からして多分浮気の話だろう。仕方ない。対策
考えなきゃいけないし。

嫌だけど行くか。そうと決まればさっさと帰る。

あとは頼んだ！チーフ達。仕事より大事なものがある！

命だ……！！

ってことで和●へ。

「ビールを中2つ」

注文をして前を見ると

支店長が口を開く。

「美●子が今家にいるんだ」

美●子さんがねえ。よかったじゃん♪……つてええ！？家にいる……つて支店長単身赴任だしク●ニークのお姉ちゃんが通い妻みたいになつてゐるって聞いたぞ！

オイオイ……どうなってるんだよ。

「昨日来て飯を作ったんだけど飯の中に虫が混ぜてあつたんだよ」

ええ！？

「混ぜてあつたって……勝手に虫が入っただけじゃ……」

「今朝は納豆の中に髪の毛が入ってた」

………ゾッ。果たしてわざとなのか偶然なのか。偶然であつてくれ。わざとだったら相当怖いぞ。

運ばれてきたビールを一気に飲む支店長。いつもは申し訳なさに生えてる髪をワックスでたててるのに今日はすっかり寝てしまっている。

「今日お前んとこに泊めてくれよ」
ぎゃー！！

オレも命は惜しい。もし仮に美●子さんの料理がわざとだとして支店長をオレが匿ったりしてみろオレマジ死ぬじゃん！

多分美●子さんの的に支店長が好きだから、とか自分の夫だから盗られてムカついてるんじゃない。気分は自分の飼い犬が隣近所の仲の悪いおばさん家の雌犬に尻尾を振ってる、そんな感じだろうな

そんな怖くてプライドがエベレストより高い美●子さんに対して勝ち目はない！“ご利用は計画的に”
その通り！

「今日はちよつと…」

「じゃあ家に飯食べにこいよ」

勘弁してくれ。

「よしそうしよう」

勝手に納得して決められちまった。まあ泊めるよりましだよな。

「はぁご馳走になります」

「よし帰ろう！」

Σもう！？まだ心の準備が出来てないんだけど！

が、既に目がすわつてる。まだ一杯しか飲んでないだろ！

まあもつと飲ましてベロベロになって担いで帰るよりましだよな…。
素直に支店長家へ。

駅から歩いて5分程にある3LDKの支店長のマンションは結構外見が凝っていていい所だ。3階の一番端を見上げると灯りがついている。

これからなにが起こるやら…。

ピンポーン。

カチャ。

「芦●さん？お久しぶり〜どうしたの？」

急な来客で驚いてるらしい。
オレもビックリだよ…

「えつと…」

口ごもると

「せっかくの正月で独りじゃ可哀想だろ。飯に呼んでやったんだ」

えー！？マジ？押しつけがましいな！！

帰ってやるうか？

横目で睨むと目配せしてくる。

ちっ。

「お邪魔でなければ…美●子さんの手料理頂きたいな～なんて」

実際お料理教室に通ってる美●子さんの料理はともうまい。

「邪魔なんて何言ってるの。上がって」

なんだ普通じゃん。やっぱり気のせいじゃないか？

あがってしばらくすると料理が次々と運ばれてくる。おせちがかなりの量あるが全部自分で作ったというから大したものだ。

おかずが沢山出てきて最後にご飯が運ばれてくる。オレのご飯は白米だが隣の支店長のを見ると、

！！！！！！？麦飯！！？

なんで？前社員食堂で麦飯はキライって喋ってた気がするが気のせいかな？？案の定苦虫を潰したような顔をしてる。

チラッと美●子さんを見るとニコツと笑顔で

「少しは健康に気を使わないと」

………………。オイ、支店長、もしかしていや、もしかしなくてもマジかも…よ？

大丈夫、土下座するか指詰めればなんとかなるんじゃない？

しかしそんなもんじゃすまなかった。

飯を食つてると横で口になにか堅い感触らしくなに出してる。
見ると

固く固まった…ご飯??

出して何事もなかったように食事を続けている。2人とも、だ。
まあ部下の前で言い合いなんてプライドが高すぎて出来ないだろう
な…

怖ええ——！！

こうなりやさつさと食って帰るしかオレの胃が安全でいる方法はない！

支店長には悪いが。

大人しく切腹するなりしてくれ。

「じゃあオレはこれで…」

「ゆっくりしていけばいいのに…」

とんでもない！

「すみません、明日早いので。また今度。」

あくまで次があれば、ですよ。

支店長を見ると青い顔をしている。ふっ。悪いが自業自得じゃないか？

サヨナラ、支店長。

次の日支店長と仕事場で会ったオレは挨拶の前に言ってあげた。

「ご無事でなによりです。でもク・ニークのお姉ちゃんと別れた方がいいみたいですネ。」

オレなりの精一杯の思いやりだった……。

今日の天気予報です。

日本全国の浮気中の皆様、午前中から曇り、夜には台風になるでしょう。ご注意ください♪♪

試練7 言い間違い（前書き）

更新がまちまちですみません。どうぞ愛想をつかされることなくお付き合いです。

試練7 言い間違い

サービス業であるオレの会社は年末は勿論、新年なんて当然ない。今回は年末と新年早々にあったプチ（？）事件を2つ程書こうと思う。

年末もど年末。

2006年12月31日！

ドラゴンフルーツ事件が終わりバタバタと閉店五分前！事件は起こった。

お客様が責任者を出せと電話で騒いでるらしい。いつもの通り

「お待たせ致しました」と応対すると

『すぐに地下に行く下りエスカレーターの下にこい！』

プチッ！！

ツーツーツー……

……まだ何にも言っていないじゃん……

それでもノコノコ出かけていくオレ。

うちの店に地下に続く地下エスカレーターは2つあるんだよね……困ったな……

2つとも行ってみるがない……オレの仕事、明日の福袋に入れて売ってやりたい位あるんだよね。帰っていいか？

帰るぞ？

むしろ帰せて下さいお願いします——〇
イライラしながら探していると

ブーブーブーブー首輪…じゃなくて携帯になる。はいはい…なにかなあ？『今どちらにいらつしやいますか？』

「ん？地下エスカレーターホール」

『お客様からまた電話がかかってきましたよ！一体何時間待たせる気だ！！』って『え！？オレ今どっちも行っただけどいなかっただよお客様。』

不満げに言つと『あの、もしかしてなんですけど…』

ん？デートの誘いか？？365日24時間空いてます！！

『エスカレーターとエレベーター言い間違えたんじゃない』

なんだ、そっちの話か…つてええ！！？

………有り得る。むしろあり得すぎて怖い。ダッシュで（オレって健気）エレベーターホールに行けば………いた！

奴だ——！！！！！！……ちよび髭に黄色いサングラス、PLA・BOYのスエット上下。うげろお……いつものクレーマーじゃないかよ。

オレの中のクレーマーファイルNO.6

あー、しまった……。こりゃあ二時間は仕事に戻れないや。やめてよ、もう既にオレ半泣き。

やべえ、目が合ったよ、オイ—Σ（。D ;）

彼はオレを見つけるなり『おう！芦●じゃねえか！こっち来て座れよ』

芦●じゃねえか…つてオレはダチかよ！しかも名前覚えてやがる！！今日はトホホデーだ。

んで彼の話の内容はと。

『お前んとこ、あれダゾ』

あれってなんだよ！

『クリスマスイルミネーションがなかったぞ』

あつたよ！

「ありましたよ。正面入り口に」

『んなもん知らねーよ！オレがいつも入ってくる入り口になかったんだよ！』

えっ…

『あのーお客様いつもご来店のお入り口はイルミネーションのしよ
うがないんですが…』

『飾り付けしよがないとやんないのかよ！！』

そんな無茶な！

『メリークリスマス！！と言って女の子たち入り口に並べるくら
いしろよ！それ位お客様に対する礼儀だろう』

どんな礼儀だよ…うちの店はキャバクラじゃないんだけど。

「はぁ申し訳ありません」

こうなりや申し訳ありません攻撃だ。

解説しよう！申し訳ありません攻撃とは、

ただひたすら申し訳ありませんでしたを繰り返すことにより謝るから早く帰ってくれ」とアピールし接近時間を短くする大変けしからん接客業の基本的な攻撃（？もしかしたら防御？？）である！が、効かない…。

それから云々かんぬんメリークリスマス♪って表示がなかっただの（あった）おせち料理が高いだの（そういうものなんだってば）大体なんで1月1日は早く閉めるんだ、昔は1月1日からはやってなかった（オレも1日位は休みたいよ！）……などなど長々と話をしていた。

申し訳ありません…はい、はい、あゝそうですねえ…はい、はい申し訳ありませんでした…

言い続けて早43分……

『ったく分かりやあいなんだよ』

はあ…やつとお許し頂いた。疲れたよう（ノー・。）

はゝやゝくう来い来い♪♪ 霊枢車♪♪

ちなみに小話程度で収まると思ったのに変に長くなってしまったので年始プチトラブルは試練8にて更新しようと思います。ご了承を。

試練8 福袋争奪戦(前書き)

続けて更新してみました。えらい！

試練8 福袋争奪戦

新年1月1日

カポーン。

世間様はお雑煮を食べつつお正月番組でものどかに見ているというのに！オレは……

おばちゃん2人の福袋戦争の真っ只中にいた……

目の前ではおばちゃん2人が某メーカー・ラ・ステの福袋を取り合い喧嘩をしている。

「私が先に触ったじゃないですか！」

「何言ってるの！私が持ってたでしょ！それをそっちが引つ張ったじゃー！」

なぜこんなことになってるかと言うと

事の起こりは数十分前。

新年早々（ご苦労なこった）開店と同時に人が津波のように押し寄せ福袋戦争を開始した。勿論有名ブランドメーカーなんて大変なものだ。押し合い取り合い掴み合い、さらには戦争のどばっちりを受けて鼻血を出す店員まででる始末。

そんな中事件は発生。ラ・ステの最後の一袋を取り合いおばちゃん2人が取っ組み合いを始めたのだ。そのまま両者とも福袋から手を放さず……

見かねた店員が2人を応接室に連れてきた訳だ。

よけいなことを……！！

そして呼ばれたのはオレ……。

よりによつて何故にオレ！？
チーフでいいじゃん！！
くおおおー！！！！！！！！

応接室の窓から中を見ると険悪な力エルが潰れたような空気が流れてる。

い、いやだー！！

絶対入りたくないーっ！！！！

逃げようかと真剣に検討を始めたその時！

「頑張ってくださいね」

おっとりちゃんから声がかかる。

「大丈夫。すぐ解決してくるよ。」

.....。

オレのバカ。

大バカ。。

この時程自分のカッコつけを悔いた瞬間はない。
観念して入った。

そして今に至る。

はあ。。

たかが福袋位で初対面の相手をこんだけケチヨンケチヨンに言えるんだ。女性はすごい。。

聞いているだけで疲れてきたオレを置いて話は進む。

えっ！？

口挟め？

情けないって!?

だって今口出ししたらオレきつと骨すら残らないし口出すスキがないんだよ。

そうこうしてるうちに

『大体福袋の数が少ないんですよ!!』

と話がこつちに来やがった!!

でええええー。

そう来る!!!?

しかも相手も賛成しだしたし!

はあ…。

仕方ない。

「分かりました。では他の店に余ってましたらお取り寄せします。」

「まったく最初からそう言ってくればよかったのに!」

「本当に。」

ナヌ!?!この期に及んでオレが怒られた。

バカ言え。基本的到店にはクレーム用に予備を用意してある。それを使うんだよ。

「では福袋が届きましたらお電話しますので」

2人の連絡先を聞いてとつと帰って頂く。

本当は店内にすぐあるけどすぐになんて出さない。

少しくらい待ちやがれ！！ちきしょー。

んで1月3日電話をかけた。

『あーすっかり忘れてた。やっぱりいらないわ』

.....。

オレ、神様じゃないから怒っていいよな.....？

ばかやろー.....お！！！！

試練 9・0 歯を（前書き）

今回は前編後編に分けました。ご了承ください。

試練 9・0 歯を

だはぁー。

ストレスピーク時になってしまった。とばっちりを受けた皆様、申し訳ない。

ったくしょうがねえな〜芦●は！！とか言いつつ許してくれ。

なんか楽しい事ないかな
ブツブツブツブツブツ…

オレの首輪…じゃなくて…携帯のバイブになった。

携帯『ブツブツブツブツ…』

オレ

「……………」
携帯『ブツブツブツブツ！！』

オレ

「……………」
画面とにらめっこをする。

根負け勝負だ！

と、

「電話、なってますよ」
クールな声が横から。

去年入社したばかりの女の子にツッコまれて

「あ、はい…そうですね…」

とかブツブツ言いながら一呼吸して電話に出る。

「も、もしもし！お待たせしました。芦●です！」

いかにも急いで電話に出ました！風を装う。

電話はオレの予想通りの内容だった。

すなわち、女の子がお客様に電話で二十分怒鳴らてるのでどうにかしてほしい、と。

走って行ったオレの目に映った（こう書くとちよっとラブストーリーみたいじゃないか！？）のは半泣きなりつつ電話に向かって誤り続ける新人の女の子だった。

はあ…オレってビンボーくじだな

そのまま女の子の手から電話を抜き取る。

「お電話代わりました。わたくし責任者しております、芦●と申します。なにかございましたでしょうか。」

『おう！お前責任者か！えっらい遅く出てくるのお』

広島弁？大阪弁？みたいなドスの効いた声で相手は話してくる。年は…50いや…60才か。

『ほなら話が早いわ。今から出てこいや。お前にも食わせたる』

なにがなんだか分からないうちに住所を告げられ電話は一方的にきれた。

待て…………

食わせたる。

—なにを？

「なんだったの？」

電話をとっていた女の子に聞くとどうやら地下の惣菜で買ったタケノコの煮物が固くて食べれないと怒鳴ってたらしい。

行くか…。

一応詫び品と代替え品とご返金できるようにお金を持って、行つてきまゝす。

お客様のお宅へは車で25分弱。

車をとめて小道を少し歩けば

“是●”と表札があつた。

ピンポン♪♪

インターホンをならすと奥から頭がない…じゃなくて髪がない恰幅のいい(70才位だろうか?)お爺さんが出て来た。

「よう逃げんかった。早よ入りたい」

逃げてよかつたのか!?!つてか逃げるような事されんの!?!?

心臓はすでにバクンバクンどこの騒ぎじゃなくバンバンバンと警告音を発してる。

畳の部屋に通されるとテーブルの上には見慣れたトレイと食べかけられたタケノコの残骸。

これから何が始まるやら。嫌な予感がビシバシする……。

「俺が買ったんだがいくら噛んでも噛みきれんわい。お前食つてみい。見ててやるさかい」

!!食うの!?!?

オレが！？

視線が痛い…。

食うか。

パツクリ…。

モクモク…。

タケノコは容易く口のなかでほぐれ味付けもキチンとされてる。

オレが食ったのをみたお爺さんがうれしそうに声をかけてくる。

「どや食えんかったやろ？」

普通だったオレは遠慮がちに

「わたくしの食べたタケノコは問題なく感じましたが…。」

しまった！！

不機嫌顔になったぞ！！

「ほおか…んならオレが食べたタケノコ食ってみい。」

え…。もしかして横にある口から出しました…みたいなやつのこと
???

だって一回口に含んだんだろ！？

それを…オレに食えってか！！？

前を見るとニヤニヤとした爺さんと目が、合った。

……。まるで食べれない
ならお前の負けだと言うような。

……。次回に続く。

試練 9・5 大切に！（前書き）

後半です。

バラして欲しい事があれば評価からご連絡ください。

試練 9・5 大切に！

これは神様からの罰なんだろうか…。

昨日聖書を踏んだからか？いや、コーランの悪口を書いた本を見て笑ったからだろうか？

はたまた、仏壇に水を零してどうせ乾くだろとか思ったからか？もしかすると大仏の頭ってウンコみたいだよって女の子に絵を書いたのが悪かったのかも…？

神様、仏様、アラーよ！！！！一体オレが何をした！！？悪いが心辺りが多すぎて分からん。

一言言い訳をすれば、いつもの事じゃんか。

いつものように笑って許してくれよ！

頼む！
な？

いくら思っても状況は変わらない。

皆様ご存知。

他人様の口の中に一回入ったタケノコを強制的に食わされようとしている。

選択肢は2つ。

1・食わずに返金と代わりの品物と詫び品を置いて帰る

2・食べる。

2つに一つ選べばいいんだ。簡単♪簡単♪

当然1だろ。迷う価値ナシ！

オレがおもむろに荷物に手を伸ばそうとした時！予想外の事態が起
こった。

何故か…

オレの手は…

タケノコに伸び…

……………食った。タケノコを。

もぐもぐくん。

……………どうやらオレは、女だったらしい。

心と体は別物よ♪♪

ってかぁ!!?!

ふっざけんなよ、オレ——!!!!!!!!!!!!!!

涙目になりながら食ったタケノコは、
柔らかかった。

そのまままだ理性がどつかで残ってたらしく半分しか食べてないタ
ケノコを持ちあげ冷静に言葉を紡ぐ。

「こちらの商品はわたくしには問題なく感じましたがこちらで詳し
く調査させて頂きますのでお預かり致します。」

あ然としてオレを見るお爺さんを（食ったからビックリしているの
かオレの行動に一貫性がないから驚いてるのかイマイチわからん）
一瞥して立ち上がる。

スタスタ歩いて靴を履こうとすると手にした詫び品が目につく。

忘れてた。

動揺なんて案外女々しいぞ、オレ…

「失礼しました。こちらはご迷惑をお掛けしましたので宜しければお召し上がりください。」

お爺さんに菓子折りを差し出すと意外や意外。
異常に嬉しそうに

「気が利くやないか」
と言って受け取る。

なんでこんなに嬉しそうなんだ？たかが菓子折りだそ…と顔をふとあげると見てはいけないものが目に飛び込んできた。

ニカツと口を広げて満面の笑みを浮かべるお爺さんの鼻のすぐ下。

その口に歯は！……………無かった！！

正確に言うとは無かったわけではなく、
ただ単に一本だった。

糸切り歯（と言うのだろうか？）のみ。

オレは暫く見入っていた後もーれつなウケが襲ってきてプルプル震えた。

その場で笑わなかった自分を褒め称えてやりたい。
逃げるように車の中に戻り。

爆笑した。

後で考えてみれば、ちよつと待て！

歯がなけりやあ当然タケノコ無理でしょ!!!

.....勘弁してくれ。

因みに本部に出したタケノコは

“問題ありませんでした”

と冷たい一言だけ添えて戻ってきましたとさ♪
めでたしめでたし♪

試練10 寄生虫は食料です[♪]（前書き）

間があいてすみません。私事で申し訳ありませんがこれに出てくるおっとりちゃんとこのたびお付き合いますことに。
他の話として書かせて頂く予定です。

試練10 寄生虫は食料です♪

静かな最近。

お正月準備でお金が無くなったちようど今が平和な時期だ。

ヒラヒラ蝶でも飛びそうな日々を切り裂いたのは……………

……。もちろん、お客様だ。

「ふつつざけんじゃねえ！！責任者呼んでこい！！！！！！！！！！」

食品フロアを歩いていると雄叫び（マジでそれしか例えようがない）が耳をつんざく。

なんだなんだと近づいてみれば、鮮魚のところでお客様が吼えていてその前には従業員が数人でオロオロしている。

すでに人だかりが出来始めた。

げえー。見ちゃいけねえ……。関わるの止めよう。逃げるが勝ちだろ

ーと少し離れた場所からさらに離れようと背を向けたその時……！！

「あ！副支店長……！」

……。オレ副支店長……じ

やなかったよな、うん。

そうだ。

数年前までは確かに違かった。

ってかオレ耳悪いからさ。

うん。間違いない！

そう決心した瞬間、バタバタと足音が聞こえ腕を掴まれた。。

「副支店長！！！」

… ああ、オレの平和な正月（遅っ！）SA・YO・NA・RA！！！！
明後日をさ迷った視線を腕を掴んだおばちゃんに戻し即座に驚いた
表情を作る。

「わあ、ビックリしたー！！どうかしましたか？」

何にビックリしたって自分の変わり身の早さだよ
そんなことはつゆ知らず

「大変なんです！魚が虫が付いてお客様が怒りだして…」

なんだかテンパっててよく分かん。おばちゃんに引きずられて騒
動の真っ只中へ。

お客様の顔は既に仁王顔でオデコからは血管が。

Σ！！怖え——。

誰か助けてくれえええ。で、結局なんなんだ！？サッサとこの騒
動を片付けて再び平和な正月ウエルカム！！

「あんたが責任者か！？」

不本意ながら当たりです

「はい。わたくし芦●と申しますがなにかございましたでしょうか。

」

「あんたこれ見てみな。」

指を指された先を見ると一匹の魚。
これがどうした。

！？

表面になにか白いのがうねうねしてる…

○#▲ ■！！！！！！！！？

なんだこりゃ！？

表面には糸ミミズの小さい版みたいのが這っている。かなり気味が悪い。

隣にいた鮮魚の担当者に聞いてみる。

「これなに！？」

彼女はケロッと答える。

「寄生虫です。」

オイ！

“寄生虫です” じゃないだろ！んなもん見りゃあわかるわ！！

慌ててお客様を見ると怒りでプルプルしてらっしゃる。オレの膝もプルプルしてるよお客様。恐怖で。

「この魚全部下げて。」

後ろに指示を出すと

「下げなくていいよ！食べるんだろ！！ええ！？店員さんよー！？」

お客様から声が飛ぶ。

はあ？なんの話だよ！？お客様はオレを通りこしてさっきあっさり“寄生虫です”と答えた後ろの彼女を見ているご様子。慌てて彼女を振り返る。

あのー、さっきから振り返ったりお客様を見たり首が痛いんですけど。

決めた！生まれ変わったらアラレちゃんになる♪ってそんなこと考

えてる場合じゃないよ、オレ！

「はい。焼けば問題なく召し上がって頂けます。」

Σ！！NO——！！何を言いだすんだ！！！！

この気味の悪いのを食べと仰る！？うつそおん。オレは嫌だ！！断じて嫌だ！！！！

ひいひい！怖くてお客様の顔見れないよ！

このヤロー！後で覚えてやがれ！！ちきしょー。

我に返って慌ててお客様に頭を下げる。

「も、申し訳ありません！！お客様！直ぐにこちらの商品下げさせて頂きますので！！」

相手の靴が見える位頭を下げてそのままお詫びをする。

暫く頭を下げたままのオレを見て

「そんなんでも納得するか！こいつが言い切ったんだ！！こいつの始末もつける！！」

「勿論でございます。」

彼女に店内から出てくように目配せする。

店外に出て行ったのを確認すると

「お客様もこちらへどうぞ」

店外にある応接室にご案内する。

店内はある程度人ばかりが出来てしまっていてこのままではまずい。

「皆様、ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんでした。只今よりお魚類を2割引させて頂きます。ご利用下さいませ」

鮮魚に指示をしてオレも店外の応接室に急いで行く。
後で始末書書かなきゃ…シヨボン。」

息切れたく年なんだから走らせないでくれ…。
はあ。

一呼吸し応接室に入って行く。

「お待たせしまして申し訳ありませんでした。」
と、意外な反応が。

「いいよ、あんたも忙しいだら。皆の前で怒鳴って悪かったな」

… あんなに怒ってたのにどうしたんだ？

「ったくあんたが悪くない事は知ってる。いい従業員も多いしな。
ありや人間性の問題だろう。だがな、おたくみたいなデパートがあ
んな従業員置いちゃあいけないよ」

どうやら常識のあるお客様らしい。

「申し訳ありませんでした。」

ふう、と一息ついたお客様はそれから20分程オレと話をし、用
意したお詫びの品を辞退して帰られた。

へ、へビーだった。

へビーすぎてオレの髪はベビーになるところだ。… オレの髪にはス
トレスが一番良くないのにい！！

お客様が帰られた後一人で応接室で悶々としてたらおっとりちゃん
がそっと入ってきた。

「大丈夫でしたか？」

振り向かず（首をさつき振りすぎて痛いんだなあ）苦笑いを浮かべて

「なんとか」

と相槌をうつ。

「お客様あまり怒って無かったですでしょう。」

なんで知ってるんだとおっとりちゃんを見ると

「東北なまりが入ってたから青森ですか？つてきいたら喜んでやって」

！！そうゆうことが。全然気づかなかった…。

さずがおっとりちゃん。

「二十代なのにしっかりしてるねえ、助かったよーやっぱり年の頃なの？」

ちやかしていうと

「もう！この前助けてもらったから助け返したのに！」

怒って行ってしまった。

なる程ね、

いい従業員と悪い従業員、ねえ。

余談だが鮮魚のおばちゃんはこのあとしこたま説教をしたが逆ギレされて帰られてしまった。

トホホ…。女性を怒るのは難しい……………。

そして女性強い！

なぜならば寄生虫を焼いて食べてしまうのだから。
おお怖っ！！

試練10 寄生虫は食料です♪（後書き）

今回でわたくしの役職がバレますがもし気が付いても上司にチクらないでください（苦笑）

試練＋怒り　メンチ切り（前書き）

意外に間が空きまして申し訳ありません。
読者の皆様、感謝致します。

試験＋怒り メンチ切り

「バキッ！！」

突然だが。

オレは殴られた。

誰に殴られたか。

お客様だ。

なんで殴られたかって？

オレが聞きたい！

どうやら紳士服売り場にて接客してほしかったがお気に入りの係員が他のお客様を接客だった為ド短気な彼は“関係者以外立ち入り禁止”のドアを思いっきり開き

「ふざけんじゃねえぞ！くおるらあ！！！！」

と怒声を聞いたオレがそこに駆けつけた。らしい。その巻き舌といったら！イタリア人もびっくりだ。そりゃあ胸毛も生えるにしても運が悪いにも程があるだろ。なあ、オレ…。

そんな訳で男のバカ力で殴られ腫れた顔を押さえ呆然としてる訳だ。因みに犯人はしまったと思ったのか一目散に走って逃亡。

野次馬だけが増えてく中でトボトボと自分のデスクに向かって歩くなんてなんとも情けない！！

トボトボ…トボトボ…トボ…ムカ…ムカムカ…
ぶっちーん！！！！

「ふざけんな！クソやるお……」

絶叫途中で周りの人がこっちを見てることに気付き慌ててやめる。
オレには絶叫することも許されないのか……！！

と、いうことで。どうしようもない怒りを持つて人間はやはりどうしようもない考えが出るように。ちょうど本部に提出を迫られてた業務改善計画提案書にこう書いてやった。

1 .

「お客様、お出口はあちらです」

と言って笑顔で入り口を指差せるお帰りお勧めプラン。

これは有給休暇と同じシステムでクレーマー様あるいはそれに準じる行為をなさったお客様のみに使える。使ったあとは上司の認め印と報告書を提出しなければいけない。因みに回数券で年10回程使える。

2 . 聞かなかったことにしよう、プラン。電話を途中で切ることが出来る。これも有給休暇と同じシステムでもちろんクレーマー様あるいはそれに準じる行為をなさったお客様のみに使える。開口一番怒鳴ってきたお客様に有効である。

切り方までマニュアル化してみた。

まず電話線をもち繋ぎ部分に手をかける。相手の声が聞こえていても

「……もし……？もしもし……」

と言いながら電波が悪いフリをする。で、徐々に電話本体から線を抜いていく。制限5回。

3、

「お客様、仰っている事が良く解りかねます。バカなわたくしめにもう少し分かり易くご説明頂けますか」

真顔許可。よく“バカか！お前は！！”と見ず知らずのお客様に言われるから対抗プランである。オススメは、うゝん。3番だな。
そんなこんなを書いて提出してやった。

..... 次の人事異動は辺鄙な店だろう
な。引っ越しの準備してこ。

ちきしょう！

試練11 不幸の手紙

「おはようございます」

言いながら自分の責任つきまっすぐにパソコンに向かう。

えーっと、昨日の売り上げは… っと、ん？メールがきてる。
なにになに…

本文

支店長死ね！！！！

うん、うん。たまに同感だよ。

ってなんじゃこりゃあああ！！とりあえずオレじゃなくてよかった
ー、なんてホツとしてる場合じゃないよ。

宛先は… オレと統括チーフと各役職宛て… と… 支店長宛て！？一目
散に支店長室に走った。幸いまだ時刻は朝6時過ぎで食品関係者し
かない。支店長室に入り込みパソコンを起動させる。なんだかこ
れじゃあオレがやましいことしてるみたいだ…

画面を見るとやっぱりメールがきてる。ギリギリセーフ！えっと、
これをクリックして… ん？パスワードを入力してください？げっ！
パスワード設定してるし。心配するな、誰も見やしない。いや、オ
レが見てるか…。にしてもマズすぎる。メールを消去できないじゃ
ないかよ…。うーん、困った。時刻は既に支店長が出勤する時間。
仕方ない、引き上げるしかない。あー憂鬱だー。これから嵐のよう
な一悶着が起こるんだろう。考えただけで体重5キロは減りそうだ。
メタボでもいい！こういう騒ぎだけは止めてくれ…

トボトボ歩いてると前から噂の支店長。こんな日に限ってなんで早
いのさ…。

「おはようございます。」

「おはよう！いい朝だねえ」

いい朝！？それっていつの事？まさか今日の事を言ってるわけじゃねえだろうな… ったくいい朝がこれから涙と怒声に変わるとは知らずいい気なもんだ。ご機嫌全開である。

「そ、そうですね（？）」

思わずでもってしまった…。はあ…。今日の天気は晴れのち唾つてとこか。自分のデスクに戻り支店長からの怒鳴り電話を待つ。

10分…

20分…

45分…

もしかして見なかったのか！？いやいや送ったものの見ないうちに間違えて消してしまったか！？

よしよいい昼に近づいてきたぞ。さわやかな昼だ♪鼻歌も歌いたくなる。

ふんふるふるるふんふん♪

横から声が。

「もしかして今日の料理の歌ですか！？気付きました…意外に音痴ですね」

おつとりめー！と思ったがまあいい今は気分がいいんだ。

おおつと…今日は時間が経つのが早いな。メシに行こう♪

「おばちゃんB定食！」

「芦●さん今日はご機嫌じゃん！彼女でもできた？」

「まあね♪」軽口を叩きながら定食を受け取ろうとしたその時ブー

ツブツブツブツブツ……。
オレの携帯になる。

「はい、芦●でえす」

「急いで支店長室に来てください。」

??? 統括チーフからである。

「まったく！メシもゆつくり食えやしない！！」

ふくらつ面で支店長室に行くと支店長がおかめが鬼になったような顔をしている。

おい、まさか…アレ、か!!?」

当たって欲しくない予想ばかり当たるオレ。

すでに役職者は全員集まって顔を蒼白にしている。因みにオレ達役職者と支店長の間には白い机があり、

支店長（赤）

机（白）

役職者（青）

となっていて下手なオランダ国旗ができてやがる。

支店長が重い口を開く。ほら早く言わないと役職者の心臓が保たないぜ…

「さっきトイレに行つた奴はいるか？」

へ???トイレ…?なんだあゝびびつたぜ。安心したオレとは対照に皆の顔が何故かさらに青くなる。横を見ると統括チーフは口をパクパクさせてる。金魚かよ!なんだよ、なんの話だ?早く言えよ。

「さっきトイレに行つたらこんなものがあつた」

支店長が持ち上げたトイレトーパーをみるとボールペン字で

“支店長きもい”

と書いてある。

Σ！！なんじゃありやあ！！もうそのペーパー使えないじゃん！！
 そんな支店長の名前が書いてある薄気味悪いやつなんか。

「心辺りのあるやつはいるか！？いないだろうな！！きもいとかい
てあるから若い社員だろうと思う。」

[illegible]

すでに狂犬の目になってやがる。

ビビリ 呆然としてゐる役職者は返事さえできない。そりやあそんな目された日には足も竦むつてもんだ。そんな部下に苛ついたのか

「返事はどうした！？返事は！！！」

び
ち
ゃ
び
ち
ゃ
び
ち
ゃ
！
！

嗚呼、唾が降ってきた。折りたたみ傘持つてくればよかった…。

の役職者ははじめたように

「かしこまりました!!」

キムジョンイル（北朝鮮の総書記）の部下は蟻のようにワサワサ散る。支店長室をでると

「メール…見ました？」

と統括チーフ。

「……見ましたよ。」

「あの様子だとまだメールは見てないみたいですね…」

「…だらうな…」

「同一犯ですかね」

「だらう」

「トイレトペーパー見ました？」

「いや、気付かなかった」

「おれもつともだっと思ってちゃいましたよ」

「同感だな」

「メール、いつ気付きますかね？」

「時間の問題だろ」

「そうですね」

「……………」

「……………」

「ゾッ」

さて、犯人を探さないと。支店長は若い奴って言ってたけどもいって多分カタカナで書くんじゃないの？確か“キモイ”か“キモイ”な気がする。意外に犯人は年なのか？面倒くさいな…。手っ取り早くいきますか。

やはり噂好きなパートのおばちゃんを数人話を聞くとなんだかあつさり犯人らしき人が浮かんだ。

容疑者1 食品部

中●(35)

彼は年一回の査定で給料をかなり下げられたばかりらしい。(いいじゃないか！支店長より給料少なくとも髪は多い)

容疑者2 衣料部

橘●(46)

彼は朝早くトイレからソワソワと出てきたのを見られている。(下痢だったんじゃない？あねえの？)

なんだか火サスちつくになってしまった。こうすると誰もかもが怪しくなってきた。

と、どうやらオレも容疑者になるらしい。おばちゃんち曰わくイタズラでしそう♪むしろして♪だそうだ…。

トイレだろうってことは男だよな…まさか支店長女子トイレに入ってた訳じゃねえだろな。んなことしたら犯人探しの前に警察に突き出してやる！禿ちゃびん！！

あーだこーだ言うてる内に容疑者はかなりの数出てきた。

あのだ、支店長、あんた、恨まれすぎですから！！残念！！ジャラ♪犯人探しより恨んでナイ奴探すほうがはやいですから！！斬●！！！！

マジで容疑者多すぎて絞りこめん！

既にメールを見てイカレてるから

「本部に相談してみたらどうでしょう？」

って親切で提案すれば

「そんな恥をさらすことできるか!」

ときた。ふん!!

痺れを切らした彼は

「なにやってんだ」お前ら。普段役に立たないくせに!! たまには役に立て!!」

カッチーン。

分かったよ。

犯人探し止めようぜ」。やってらんねえ。

数時間後犯人探しはあっさり終わった。

他でもない支店長の手によって。

あーあ…。

バカ。

犯人は今日も涼しい顔をして働いているに違いない。

試練12 当たってもハズレても (前書き)

意外に続いて作者も驚いています…。

皆様どれくらいお付き合いくださるのでしょうか…

試練12 当たってもハズレても。

“5000円お買い上げのお客様、抽選で10組20名様にイタリア旅行プレゼント!!!!”

こんなポスターを見たことある方は多いと思う。

だがたかがコレだけのイベントに23件のクレームがあるとは誰が知っているだろうか…。

なんだか面白おかしかったので2つ程ご紹介します。ネタ提供のお客様、どうもありがとうございます。この場で御礼を申し上げます。

「ちよつとあなた！」

店内を歩いていたらおばちゃんに呼び止められてギョツとした。

そこに居座って…じゃなくていらっしやったのは可愛らしいおばあちゃんではなく、真つ赤なコートをきてCHANELのバックを持ち、尚且つ爪は真つ赤でさらにさらにいゝ指にはでかい石の嵌ったいくつもの指輪を嵌めた60才…70才…？くらいの女性。あの指輪付の手で殴られた日にはもみじなんてもんじゃないぜ…。粗相のないようにしなければ！頑張れ、オレ！！

「はい、お客様。」

「はい、お客様♪じゃないよ！」

Σ！！く、口まねされた！恥ずかし／＼／

「私、この店でひと月200万円は買って差し上げているの。だからイタリア旅行にはもう何回も応募して上げたの。なのに私が当たっていないなんておかしいじゃないですか？」

いちいち恩着せがましいな……。だいたい200万円なんて大したことないんだよね。困ったな。

「左様でございましたか。申し訳ございませんでした。公平な抽選を致しましたのでまた次ございましたらよろしくお願い致します。」

引きつった笑みで言うと

「もしかして本当は当たる人なんていないんじゃないの？嘘言っても駄目よ！」

「いえその様な事は一切ございませんので」

「そう、じゃあ貧乏人が当たったってこと？貧乏人がイタリアなんて行つてなにをするの？」

Σ！！出たー！！貧乏人発言ー！！まさかそれってオレの事？いいじゃん、イタリア行つたって！駄目？ねえ！駄目なの！？

「いえ、そういった訳では……」

苦笑いで答えると始まってしまった……
なにが？

自慢話、が。

「私はベンツに乗ってここにくるんだけど皆が私と車を見るの。」

急にベントックですか！？
ってか、見てない！見てないから！！

「一括でベンツ位買えるじゃない。まあそうでない人もいるみたい

だけど。」

イヤミか！！ちきしょう！

「まったくこの店は昔から通っているけど最近は女子高生なんかも来て質が落ちたわね。」

……………話脈絡ねえな。いえいえお客様、あなた様のようなお客様程ではありません。

第一、金持ちなら自分の金でイタリアでもアフリカでも行ってくれ！

……………なんだか話を聞いているうちに欲しいものがでてきた。夏になってお祭りシーズンになったらお面を買ってもらおう。おっとりちゃんに。そうしないとオレはお客様を睨みつけてクビになってしまう。んでもなんとか対応しなくちゃいけない立場なオレは苦し紛れに答えた。

「お客様、いちいちご来店頂きましてありがとうございます。」

イヤミに気付いてくれるかな？

頭が悪いのかお客様は？？？を頭につけて帰っていった。おっと、帰る前にやっていったことが一つあった。

なんと彼女は値切っていったのだ。

「これ、2000円だったら買って差し上げるけど？ちょっと多めに入れて頂戴」

Σ！！？なぬー！？ゴ●イバで値切ってる人間初めて見た……………しかも多めかよ！！むちゃ言い過ぎだろ！

はあ…名前聞いておけばよかった！次になんかあって例え当たっても握り潰してやるのに。

その2

イタリア旅行が当たったお客様に一応電話を掛けたが……怒られた。
えっ？理由？

名前が一番上に載ってなかったとき。

「まったく！てめーはオレを知らないのか！？オレを誰だと思ってやがる！！！」

知ってますよ。イタリア旅行に当たった桜●様でしょ。

「あの有名な国会議員●●（↑知らない名前で忘れた）の叔父だぞ！！！」

知らないよ！そんな人！！

しかも叔父……って関係あるの！？

お客様、オレはもう疲れました…。

勘弁してくれよ！！！！

試練13 語り継がれる伝統1（前書き）

しばらく短いシリーズで書いていこうと思います。

試練13 語り継がれる伝統1

突然ですが。

うちの店に異動してくる奴が真っ先に教えられるのは基本的システムではない。

ある一人の女性の存在だ。

彼女の名前は“ませ子”という。

従業員か…？

いえいえ、とんでもない。

お客様、だ。

ませ子という名前は従業員がつけたもの。本名は誰も知らないミステリアスな女性だ。

彼女は毎日うちの店に来る。1日三回…多ければ五回程見る。

好きなモノは…

店員と“いらっしやいませ”

なんだ、そりや…とオレが異動してきた時もあった。だが、言わ

なければ。今年もそんな時期がやってきた。一年早っ！

と、いうことで読んで下さってる皆様にもご説明を。

彼女は70歳くらい。

化粧は厚い。

どれ位厚いかというと笑うとファンデーションが割れるのだ。シワに沿ってピキピキ…と聞こえない音をたてて。

目の上はいつも真っ紫で唇は真っ赤。

極めつけは香水。

あれ絶対一瓶かぶってるって！！浴びてる…って言うのか！？

とにかく個性の豊か(?)なお客様だ。

来店すればすぐ分かる。いつもより従業員のいらっしやいませがだ

んとつに多い。

それもそのはず。従業員が50メートル離れたところにいるもいらつしゃいませを言わなければダッシュで走り寄って来て（！！）

「いらつしゃいませって言えよ！馬鹿やろう！！！！」

といって怒鳴り散らすのだ。ちなみに店員を皆“おばさん”呼ばわり。

男の店員だろうが二十歳の若い子だろうがおかまいなし。当の自分は“ばあさん”だろ！！彼女に怒鳴られない奴は（皆は洗礼と呼んでいる）いやしない。皆平等に怒鳴られ、平等におばさん！と呼ぶ、ある意味公平の強者である。どっかのバカ支店長にでも見習わせてやりたい。

そんな彼女はとても記憶力がいい。従業員全ての顔を覚えてやがる……オレだってまだ覚えきれてないよ

去年の話。

オレは少し離れた店に偵察に出掛けた。もちろん私服で。

自動ドアから一般人のフリをして入るとバツタリませ子と遭遇。

げっ！オイ、一体1日何軒の店に行ってるんだよ！

いつもはここで即座に頭を下げ“いらつしゃいませ”というところふっ、だが残念だったな！生憎ここはオレの働いてる店ではない。

スルーして通り過ぎようと合意そうになった目を強引にそらすべく首をねじ曲げる。

ゴキッ！

作戦成功♪

首は後で整骨院にでも行つて治すさ。涼しい顔をしておぞましいその場から立ち去ろうと……

「待ちなよ、おばさん！いらつしゃいませって言えよ！！」

Σ！！！！ナヌー！？オレここじゃ従業員じゃないんだけど！！駄目？駄目なのか！？しかもおばさんじゃないってば！！ってか作戦め
ちゃ失敗だし！！

ちらっ…ませ子に目をやるとむっっちゃ睨んでる。いやいや、待て、
冷静に行こうぜ、オレ。ここで争うのは得策じゃない。オレは苦笑
いで

「し、失礼しました。いらっしやいませ（むしろうちの店には来な
いでくれ…）」

とませ子に言った！エライ！
すると彼女は

「最初からそう言えばいいんだよっ！！」

一睨みして去って行った。オレは一人で
あいーんだよ…って返せばよかったな…とか下らない事を考えつつ、
偵察も忘れトボトボと店を後にした。

戦意喪失し、ひとつの情報も持ち帰らなかったオレが怒られたのは
言うまでもない。

恐るべし！

ませ子！！

ちきしょー、次は勝つー！！

こうして伝統は守られ、語り告がれていかなければならない。

……………アホか！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2930b/>

神様の苦悩

2010年10月10日06時20分発行